

寫眞週報

情報局編輯

二十八年八月三日 第三百廿七號



大東亞戰爭二周年



週寫眞
報

情報局編輯
二十八年八月三日
第百三十三號



大東亞戰爭二周年

詔書

天佑ヲ降有シ萬世一系ノ皇祚ヲ致メシ大日本帝國天皇ハ昭ニ忠誠勇武ナル汝有罪ニ示ス
朕茲ニ米國及英國ニ對シテ戰ヲ宣ハシ陸海將兵ハ全力ヲ奮テ交戦ニ從事シ朕ハ百僚有司ハ勵精職務ヲ奉行シ朕
力軍中ハ各々其ノ本分ヲ盡シ億兆一心國家ノ總力ヲ奉テ征戰ノ目的ヲ達成スルニ遺算ナカラムコトヲ期セヨ
抑々東亞ノ安定ヲ確保シ以テ世界ノ平和ニ寄與スルハ吾皇祖考丕承ナル皇考ノ作述セリ遠祖ニシテ朕カ奉々
指カサレ所而シテ列國トノ交誼ヲ修メ萬邦共榮ノ榮ヲ借ニスルハ之亦帝國力常ニ國際ノ要義ト爲ス所ナリ今
ヤ不幸ニシテ米英兩國ト相結ブ間クニ至ル洵ニ已ムヲ得サルモノアリ宣朕カ志ナラムヤ中華民國政府兼ニ帝國ノ
真意ヲ解トス世ニ事ヲ構ヘテ東亞ノ平和ヲ亂シ遂ニ帝國ヲシテ干戈ヲ執ルニ至ラシメ茲ニ四年有餘ヲ經タリ幸
ニ國民政府更新スルアリ帝國ハ之ト和睦ノ誼ヲ結ヒ相提攜スルニ至レルモ重慶ニ殘存スル政權ハ米英ノ庇蔭ヲ恃
ミテ兄弟尚ホ未ダ結ニ相聞クヲ欲メス米英兩國ハ殘存政權ヲ支援シテ東亞ノ禍亂ヲ助長シ平和ノ美名ニ匿レテ東洋
制覇ノ非望ヲ遂ケセムトス刻ヘ與國ヲ誘ヒ帝國ノ周邊ニ於テ武備ヲ増強シテ朕ニ挑戰シ更ニ帝國ノ平和的通商ニ
有ラユル妨害ヲ與ヘ遂ニ經濟斷交ヲ敢テシ帝國ノ生存ニ重大ナル脅威ヲ加フ朕ハ政府ヲシテ事態ヲ平和ノ裡ニ回
復セシメムトシ隱忍久シキニ滿リタリモ彼ハ毫毛交誼ノ精神ナク徒ニ時局ノ解決ヲ遠延セシメテ此ノ間却ツテ益々
經濟上軍事上ノ脅威ヲ増大シ以テ朕ヲ屈從セシメムトス斯ノ如クニシテ推移セムカ東亞安定ニ關スル帝國積年
ノ努力ハ悉ク水泡ニ歸シ帝國ノ存立亦正ニ危殆ニ瀕セリ事既ニ此ニ至ル帝國ハ今ヤ自存自衛ノ爲敢然起ツテ一切
ノ障礙ヲ破碎スルノ外ナキナリ
皇祖皇宗ノ神靈上ニ在リ朕ハ汝有罪ノ忠誠勇武ニ信倚シ祖宗ノ遺業ヲ弘シ速ニ禍根ヲ免除シテ東亞永遠ノ平和
ヲ確立シ以テ帝國ノ光榮ヲ保全セムコトヲ期ス

御名 御靈

昭和十六年十二月八日



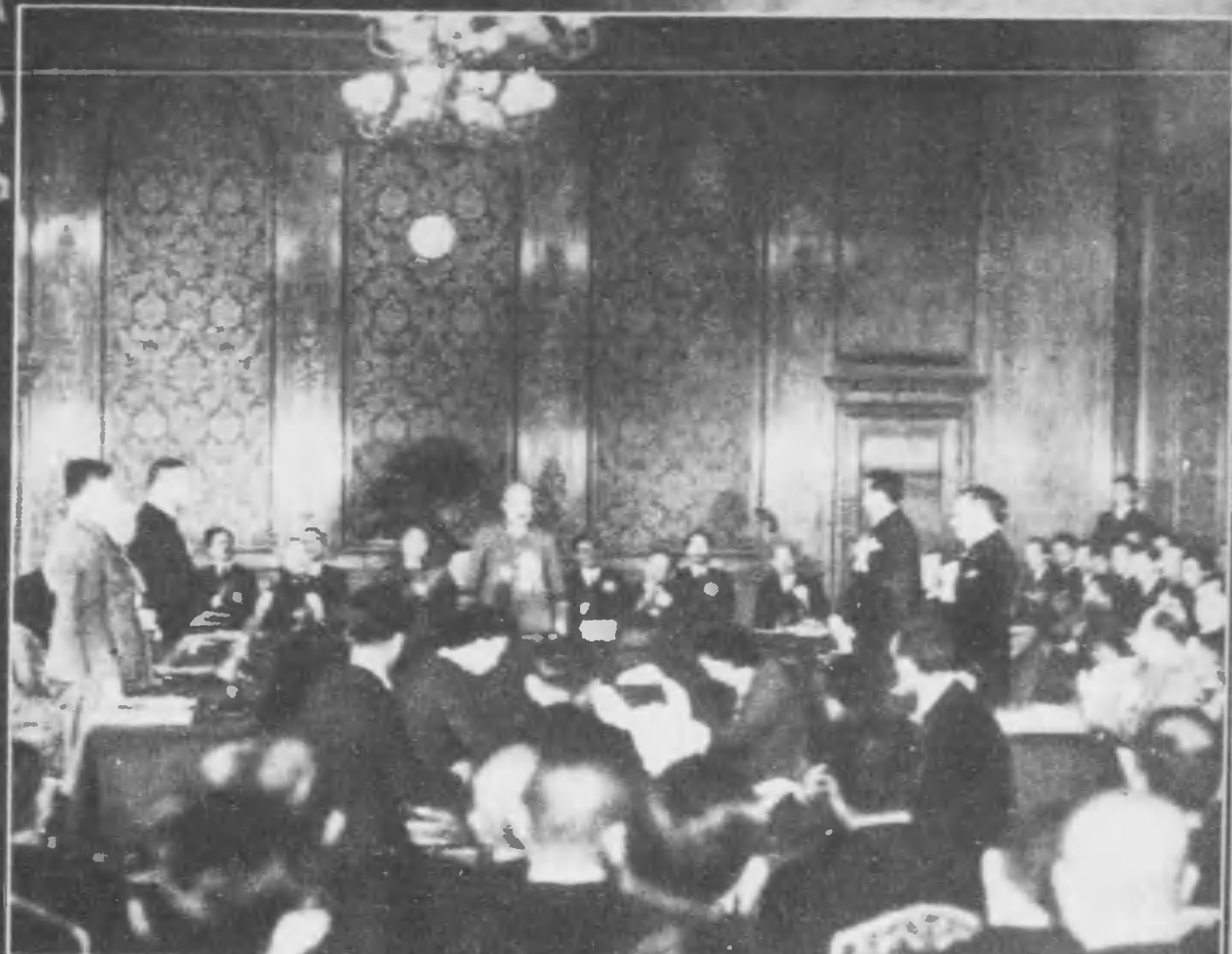
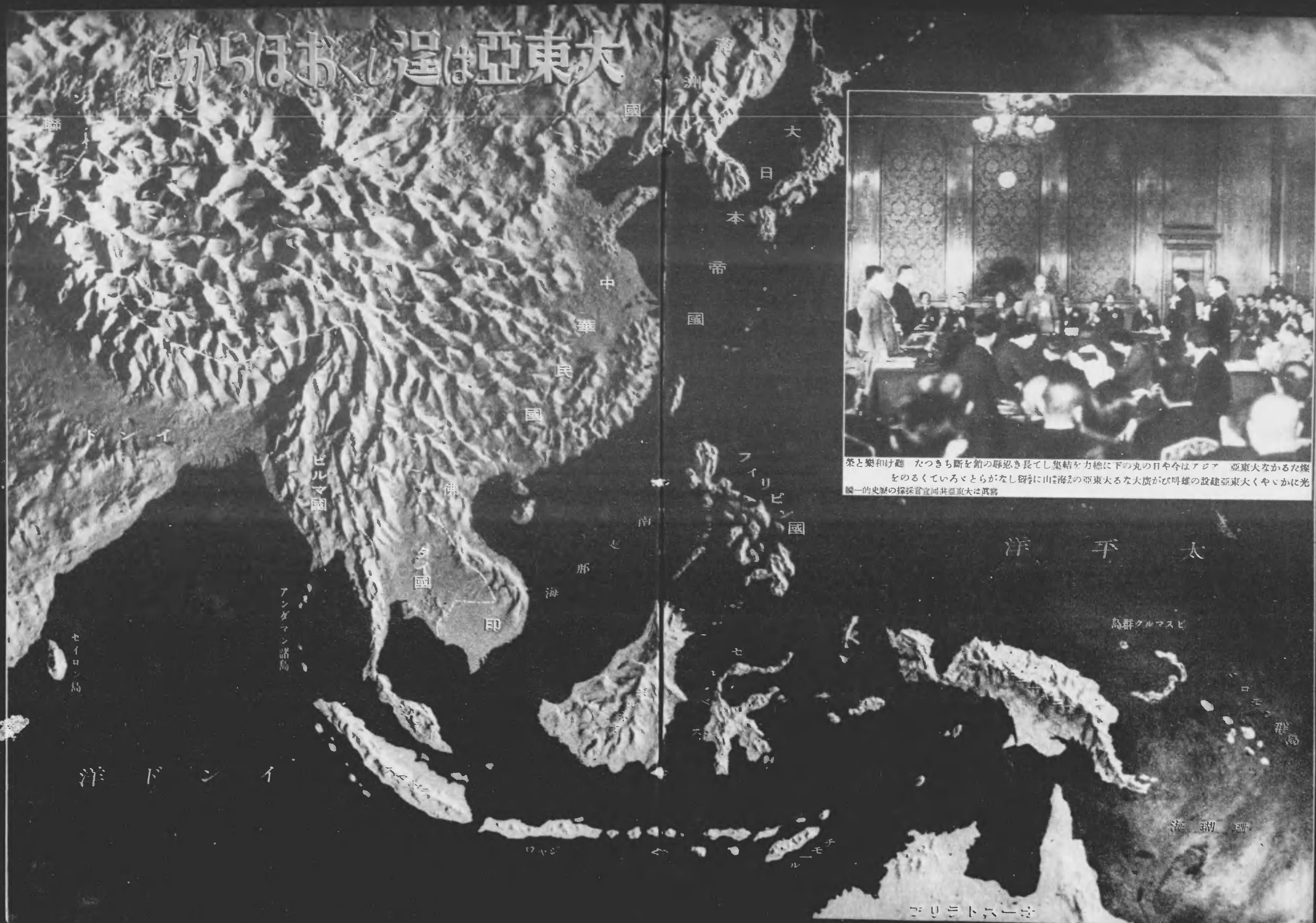
こゝに大東亞戰爭第二周年を迎ふ

朕も 天皇陛下には、時局の重大を思召され、戰爭第二年のはじめ伊勢の神宮に御參拜、御躬ら皇祖の神靈に國難打開を御祈念遊ばされた。大御心のほどを拜察して、み民われら誰一人として感泣しないものがあつたであらうか。正に敵の反攻熾烈化とともに、戦局は重大化したのである。ガダルカナル島の死闘あり、アッツ島の玉砕がつゞき、更に山本元帥の戦死が報ぜられた。一億の憤りは火と燃え、この仇討たておくべき、と神明に誓つたあの一言こそ、いまなほわれらの胸奥に生々しい
幸にして、大御稜威の下わが陸海將兵の善謀勇戦は、よく敵の暴慢なる企圖を北溟の空に挫き、南海の波濤に擊碎して、驚天の捷報踵を接して至る。われらの感激、はた何を以て譬へよう。また、大東亞の建設は日とともに進み、既にビルマ國、フィリピン國相ついで生れ、日の丸の下アジア十億の總力結集は、巨頭一同に會しての雄渾なる事實を以て世界に顯示された。アジア必勝の態勢は正に成つたのである

さあれ、時局は愈々出でて愈々重大。敵は不遜にも、あくまで地球上よりわが神國日本を抹殺せんと呼號しつゞけるのである。至尊は世にも「敵國ノ非望ヲ破碎スヘシ」と仰せられた。われら一億、私を滅し、欣然として死地に赴く將兵の心を心として、この戦ひを戦ひ抜かずして陛下の赤子たりえようか。困苦に堪へるも戦ひである。増産にはげむも戦ひである。行住坐臥、すべてこれ戦ひである。われら銃後にあるもの、第三年に突入するに當つて、三たびあの日、の感激を新たに、仇敵擊滅の決意を固めようではないか。

（寫眞は昭和十六年十二月八日宣戰の大詔を拜して宮城二重橋前に忠誠を誓ひまつる民衆）

大東亞は遅くはあつた



茶と樂和け聽 たつきち斷を館の聯忍き長てし集結を方總に下の丸の日や今はアジア 亞東大なるた條をのるくいてゐるこたらがなし銜に山海島の亞東大なるな大廣がび叫雄の設建亞東大くやいかに光國一的史展の採探宜同共亞東大は眞實



広い世界へ大手をふつて
 ゆくのた僕等は東亞の子
 新たにひらけた地平よ 海よ
 輝け 輝け 世界は朝だ
 マライの子 インドの子
 ビルマの子供も ジャワの子も
 皆な仲よく 元氣よく
 東亞の子供の輪踊りだ
 東亞の天地で輪踊りだ
 祖國よ 母よ みてごらん
 地球を飾る花冠り
 楽しい僕等の輪踊りを

育て育て東亞の子



□ ワタシ、タイヨ
 □ セレベスノ、ワタシ
 □ タチモ、オ仲間ヨ
 □ インドもお仲間に入
 れてネ



□ ボク、マライデス
 □ 中国の僕達だつ
 て、もちろん大
 東亞ッ子です。
 皆なこんなに濃
 刺と元氣です



□ カンボン・コタアラムの赤道標に日の丸を繰
 けて立つたスマトラの僕達の得意さを想像し
 て下さい。これこそ大東亞みんなの誇りです

□ 風船あがれ、ボン／＼あがれ、東亞のヨイ
 コの心のやうに。みんなのしくボン／＼
 はつむ、ボルネオのヨイコ心のやうに

□ ビルマのヨイコのガエ遊び、
 東亞の皆さんみて下さい

□ 南のお友達みて下さい。満洲は寒いけ
 ど、こんなに元氣でラジオ体操です

□ フィリピンの僕達もアイウエ
 オをならつてみます



軍國イタ



軍勇義オネルホ



軍勇義ワヤシ



軍國国民華中



軍衛防マルヒ



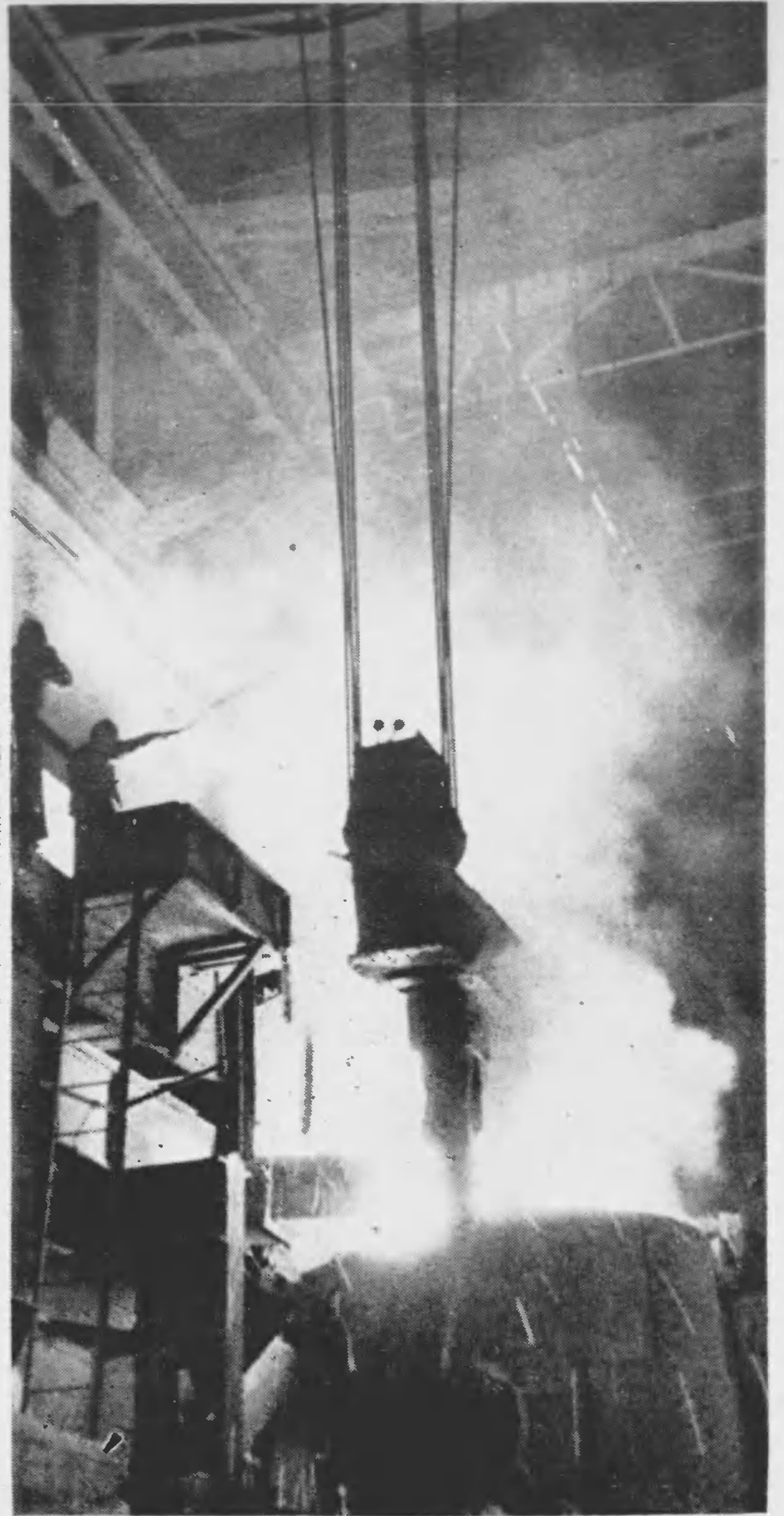
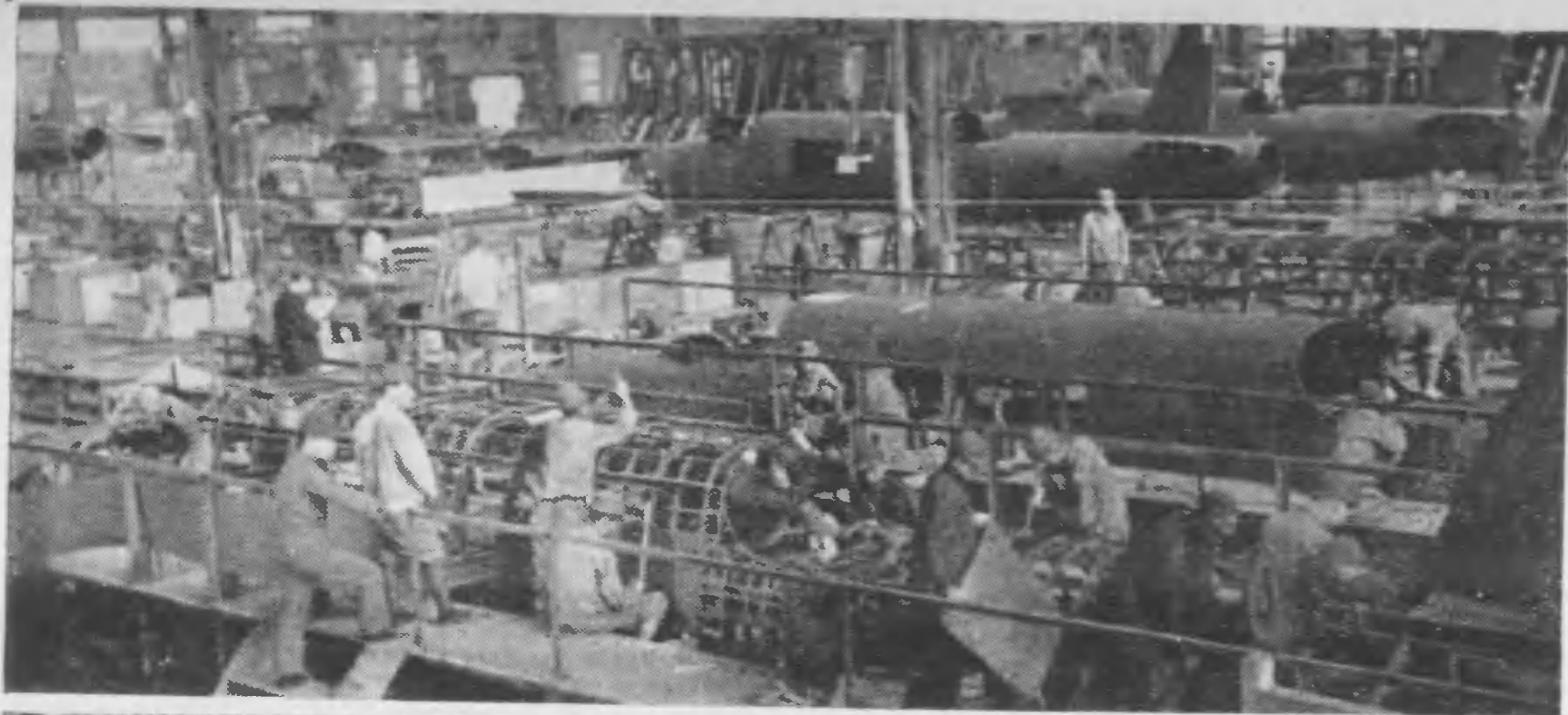
軍民國トンイ

軍國州滿



軍勇義イラマ

アジアはすべて武器を執つた



大東亞の兵器廠滿洲國

廣漠たる戦線にわが将兵が握りしめる銃把も、渺茫の海に敵を制壓するわが艦艇も、そのどこかは滿洲の石炭と鐵で造られてゐる。また、南滿の鐵土頁岩を原料とし水電發電所その他から生れる豊富な電力によつて、アルミニウム生産も飛躍的に増加した。建國十年、有力なる兵站基地として、わが國食糧確保に後顧の憂ひをなからしめて來た滿洲は、同時にまた、決戦下わが有力なる兵器廠の役割を果すまゝだ。

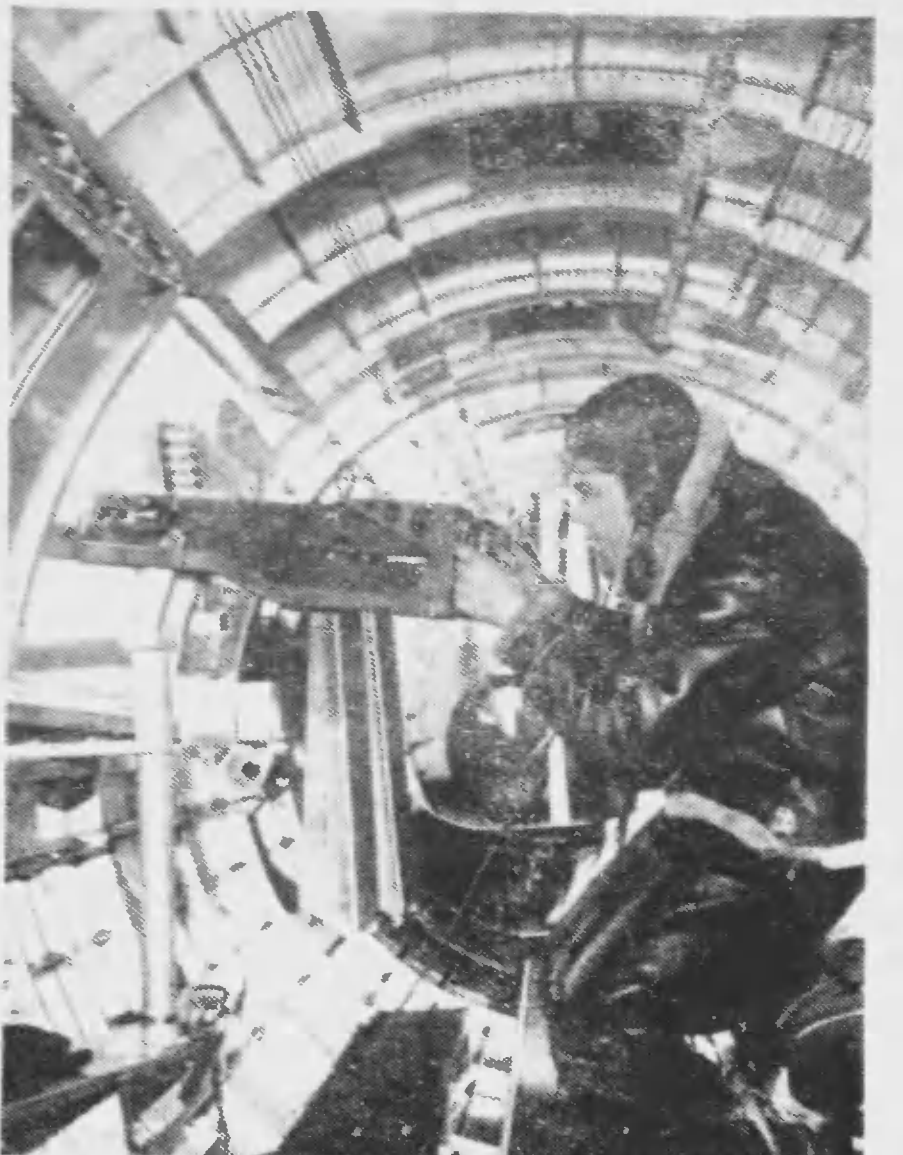
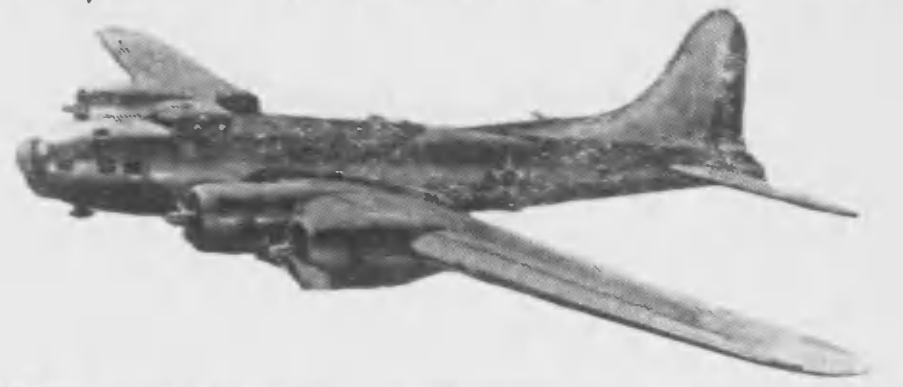
滿洲工員とともに勤務報國隊員と飛行機工場に勤務した。大東亞各民族の増進で敵を駆逐するのだ。

この軍用自動車が大連戦場を、マライ半島を疾駆した。今や新作戦にそなへて日に夜をいそがしく増した。

この敵愾心が増進へくと燃え上る。望しき滿洲工員の願志は、機銃の代りにリベツ、をタタキと打ちこんでゆく。



敵航空兵の正体を暴く



「米英は人間の國、いや神の國であり、日本は猿の國である。日本に敗れんか、この猿の奴隷となるものだぞ」と喚びたててあるその神の勅諭の正體は、

歸國の時考へてゐる心情がうかゞはれ、その性根のなまくらさに晒然とするのだ。例へば

× セチ・V・ヒンソン

ご無沙汰した。貴女はまだ僕のことを憶えてゐるだらうか。今の僕には、なかく手紙を出せないが、許してほしい

女に手紙したのは、一度も返事を受取つたことがなかつた。いま、僕は停戦の手紙の分類係をしてゐるが、僕宛ての手紙は一つもない。それでも郵便物をよりよくくこと、貴女からの手紙が来ると思ひながら出かける

貴女のことを僕がどう思つてゐるかは、今さらいふまでもないことだらう。二年前、僕たち二人でニューオールレアンスにいつたときと同じだ

彼等が東亞に侵入して以來、百年の歴史をふりかへるまでもなく、開戦から二年の間に、病院船に對する不法襲撃は實に十回を超えてゐる。また、在留邦人の前線に折り、貴國を起すほど暴徒に足を蹴り上げて残忍な拷問を行つたことは、當の敵國國境で當局でさへ、公式報告書の中で認めて

× マーレー・L・ルイス

僕は殆んど一日中、貴女のことを思つてゐる。それから、歸國した時の僕たちの生活の設計を考へてゐる。僕はいつまでも、いつまでも貴女を愛してゐる

× バナム・ワイルン

もちろん、敵兵とてこの機に漏れず、ガダルカナル島ではわが負傷兵をローラーで轢き殺す如き残虐を行つた。こゝに掲げた敵航空兵の面相を見よ



× パナム・ワイルン

× バナム・ワイルン

「女、彼等停戦手記をみれば、愛の精神もなく、野蠻目的も分らず、ひたすら無事

× セチ・V・ヒンソン

× マーレー・L・ルイス

× バナム・ワイルン



ることに努力してゐる。その金で、あの自動車を買はうと思つてゐる

等と、軍人の心變りも心配したり、妻や金のことばかりよくしてゐるのがあるが、また

ものだといふことと、日本軍は實によく訓練されてゐることだ

× マーレー・L・ルイス

どこへ行くのか知らず、自分はマイアミを出発した。カラチに到着した時、初めて支那に派遣されることを知つた。また桂林飛行場を飛び出してから初めて、香港爆撃に行くことを知つたほどで、日本軍がどこにゐるか、どんなものか、指揮官は自分たちに一言も教へはしなかつた

× マーレー・L・ルイス

「都市を襲撃して無辜の民衆、民家等に被害の及ぶのは當然で、當時日本軍の對空射撃及び飛行機の攻撃が氣になり、なるべく早く支那本土に遁入せねばと心があせつたので、爆撃効果など考へてゐる暇がなかつた。とにかく大きな建物に對して爆弾を投下した。那時下では、無辜の民衆、民家などに被害の及ぶことは當然だと思ふ」といひ、もう一人にいたつては

× マーレー・L・ルイス

さて、一時間近く飛行したとき、爆撃目標の香港市街が見えた。爆撃行は初めてなので、搭乗機の下では、どんなことが起つてゐるか、自分には想像もつかなかつた

× マーレー・L・ルイス

「國民學校らしいところに學生がたくさん遊んでゐるのを見て、このジャップめ、行きがけの駄賃に一發くはしてやれといふ氣になり、急降下して射撃した。少しはむづい氣もしたが、子供といへども敵國人だ」とまで放言してゐる

× マーレー・L・ルイス

突然、日本の數十機が自分の機をとりかこんだ。空中戦が始つた。筆舌につくせぬ経験だつた。その中の一機が自分の機の左發動機を撃ちぬいた。自分たちはびつくり仰天した。次ぎの瞬間に右機翼がやられた。自分たちは落下しようとした。が、すでに手遅れだつた。もう駄目だ、と自分は覺悟した。やつと稲田に不時着して日本軍に捕へられた

× マーレー・L・ルイス

これが敵の正體なのだ。口に自由平等をとなへて、人道もなく、日本人を獲と侮る敵を断じて撃滅しよう。彼等とともに天を蔽ふ限り、東亞に平和はないことを断じて銘記しよう

× マーレー・L・ルイス

自分が感じたことは、戦争が實に恐ろしい

× マーレー・L・ルイス

× マーレー・L・ルイス

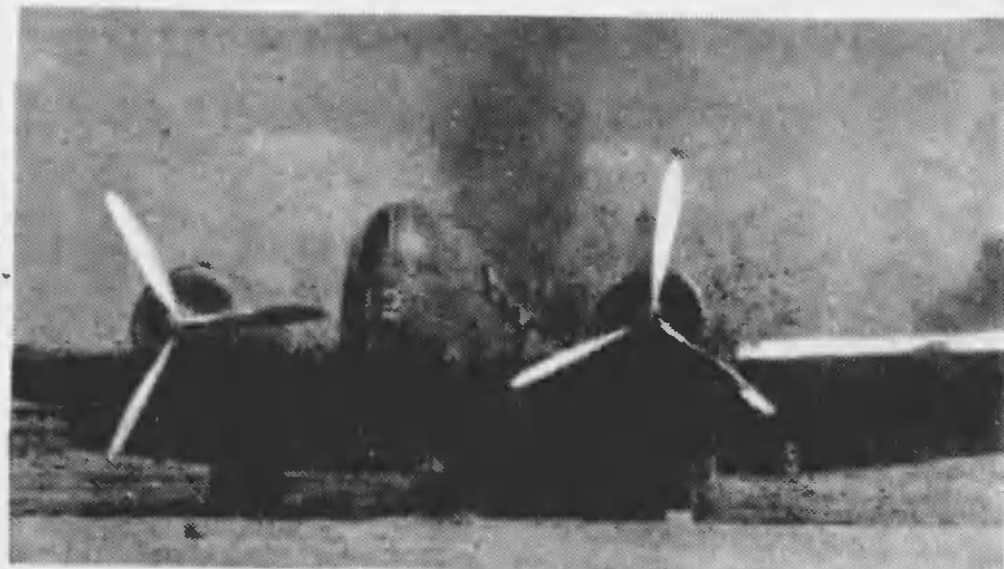
× マーレー・L・ルイス

自分が感じたことは、戦争が實に恐ろしい

× マーレー・L・ルイス

× マーレー・L・ルイス

× マーレー・L・ルイス



週報大東亞戦争二周年記念號のお知らせ
週報は十月八日號を大東亞戦争二周年記念號とし、大東亞各地の現況につき特輯いたします
本誌掲載の寫眞は特に陸海軍及び同盟通信社、滿洲國通信社、日本映画新聞の協力を得て編輯しました

昭和十八年二月
三浦支



木宮三郎 死闘

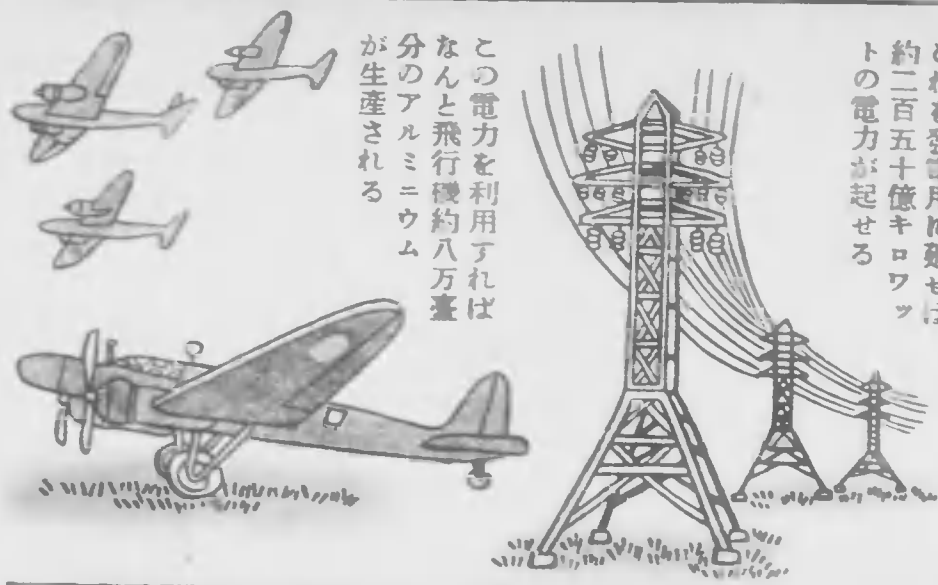
うま生を力戦てへかり切を活生

暖房停止



これを發電用に廻せば約二百五十億キロワットの電力が起せる

この電力を利用すればなんと飛行機約八万臺分のアルミニウムが生産される



家庭内職



内職も馬鹿になりません
一つの組で毎月百圓生み出して、残らず貯蓄に廻せば

一年間には、全国で十億七千万圓の巨額にのぼる



これで一發必中の魚雷を造れば、なんと、五万二千三百發もできる

十銭ニツ回収



まだ、財布の底や抽出の奥に眠つてある一銭銅貨と十銭の銅貨を、各組で二十枚づつ集めると
全国で二億六千二百八十一万六千五百枚づつになる

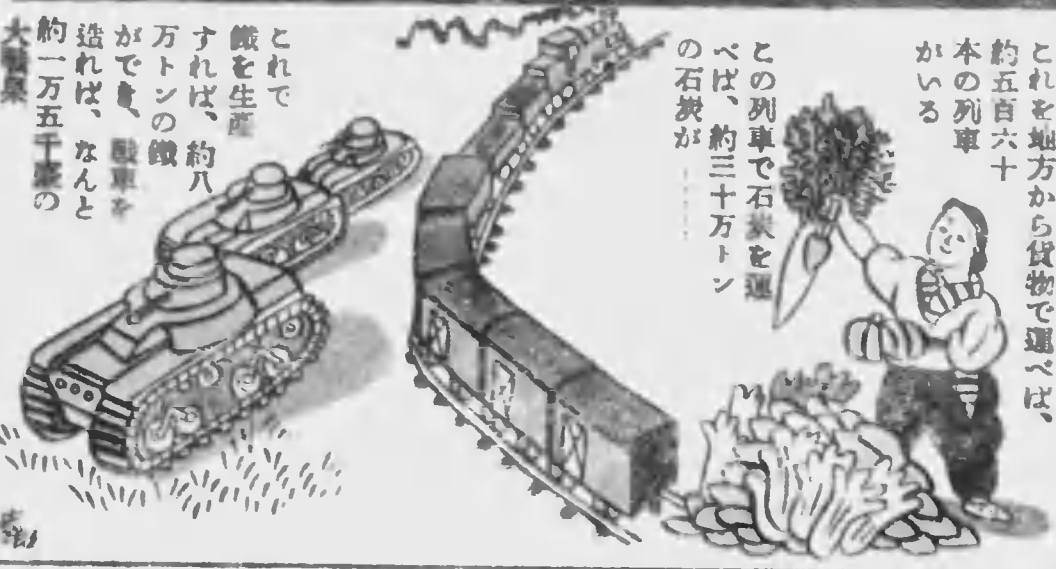


この銅貨の山には、銅約九百三十六トンを含み、三万五千トン級の敵艦二隻の建造に用いる銅の量にほぼ相当する

一坪農園



一坪農園もこんな大戦果を
東京都の戦時農園は、この一年間に、お芋や菜を一億二千万貫も収穫した



これを地方から貨物で運べば、約五百六十本の列車がいる
この列車で石炭を運べば、約三十万トンの石炭が

小泉紫郎 畫

勝利の彼岸へ突撃あるのみ

銃後の工場も戦場

ブーゲンビルからギルバートへ、太平洋の決戦いよいよ、棲川、相次いで至る赫々の戦果に、生死を超越した前線將兵の逞しき必勝必殺の闘魂を感じ、われわれは限りなき感謝を捧げるものであるが、その陰に隠らざる神兵の多くあることを想ふ。われわれの胸中ために熱く「我もまた戦ひに征かん」の衝動、如何としても抑へ難きものがある

この神兵の後に続く者も、この前線に飛行機を、そして船を、魚雷を、弾丸を送り届けるのも、ほかでもない銃後にあるわれわれである。この激戦の報に胸をどらすは、學業半ばにしてペンを捨てて剣をとり、操縦桿を握つて、陸に、海に、空に征く學徒ばかりではない。「俺も戦争に征きたくなつたよ」と、無難作にはき出す言葉の中にも、日本人の魂の赤心が盛り上つてゐる。工場も、鑛山も、國を擧げて「前線へ應へる道は増産だ、勤勞だ」と非常な張り切り方である

「私たちの小さな力も、こんな素晴らしい戦果の陰に生きてゐると思ふと、休みの時間も惜しくなります。この戦果に應へる途が、女ながらも自分の眼の前、この手の届くところにあると思へば、何ともいへぬ喜びと誇りを覚えます」

とは、或る飛行機工場に働く一勤勞女性と、或る鑛山の言葉である

必勝の生産魂

飛行機その他生産の飛躍的増進に口をすれば簡單であるが、生やさしいことではない
「これだけ速くには、どうしてもこれだけの資材と労力と、時間とが要する」といふのは、平時のときの考へ方である
原料資材が不足するとか、何とかいふが、それには科擧技術と工夫創意によつて打開の道は十分ある筈である。或る工場の女子工員が、組立てられた部品品についてゐる針金の餘分のところを三ミリほど切るのが仕事だつた。毎日のやうに切つてゐるうちに「一何故切らねばならないのだらう」との疑問を起し、上役の「始めから三ミリ短くしたら如何でせう」と提案した。それからは組立てられ

る前に針金は短くされ、三ミリづゝの資材とそれを切る人手が省けたといふ新聞記事が出てゐたが、深く考へさせられることである
いま産業人一千万人が、ちよつとした創意工夫から「思ひつき」運動に繰り起しても、生産増強に大きな効果が上るであらうし、要は生産に従事する人々の奉公心の問題に歸する
食糧戦士も前線の心で
生産と共に食糧増産、これがわれわれに課せられた絶対要請である。食糧も来年はご承知の通り、今まで一年に数百万石も輸入してゐた外米依存から脱却して、日滿だけで何とか自給自足して、その船を戦力増強の方へ廻さうといふ方針であるから、われわれは増産をよほど張りねばならない
しかも労力、資材、肥料その他不十分な條件の下でやらねばならないのだから、これ以上に食糧増産である
来年は米作のほかにも、雑穀その他およそ腹のたしになるものを用ゐるだけ澤山収穫しようといふわけでは、去年の十九年生産目標を三千百万石とされたが、今年の實收高千八百五十三万石と比較すると、勿論、今年は大敵その他の關係もあり、前年より二割一分も減收であつたといへば、容易ならぬ努力の要することは明白である
信州の或る村では、婦女といへども六十歳以上の老人以外は畑仕事に入ることを持ち「中合せ」を行つて、土地改良に挺身してゐるのだと、銃後の農村のたくましい姿が、この「富貴調査」もまたよくに描かれてゐる

完勝への道は近きにあり

完勝への道は、根本において、われわれの心構へ、考へ方、また生活のあり方の切替へから始まり、これに終るのである。すべては戦争に勝つためである。すべては勝つてからのことである
生活といへば、今まで自己の消費といふやうに考へられて来たが、これを生産的に、即ち戦力の増強に切替へることが、いまわれわれに課せられてゐるのである

われわれの生活がどんなに戦力になり得るか、こゝにいづくかの實例が示してゐる通りである。これを戦力たらしめて銃後の戦果を擴大するかどうかは、みなさんの決心と實踐の如何にかゝつてゐる。「日本の勝利なくして大東亞共榮圏なく、我が國乃至東亞における如何なる國の自由もないのであつて、東洋人の聲威は興隆することなく、西洋諸國は再び往昔の如くわれわれを支配し、疲弊死に至らざらんとするであらう」
この大東亞會議の席上、フィリピン國代表ラウレル大統領は、かく述べたが、アジアは一つにして、日本なくしてはアジアなく、アジアなくしては日本なき事實は、今や全アジアの強固なる信念となつたのである
従つていま、われわれ日本人であると同時に大東亞人であり、われわれの責任には、大東亞興隆の責任がよりかゝつてゐるのである。責任は重い、また生甲斐がある

完勝の一歩へ、すべてを集中し、突撃する時のみ、みなさんを待つてゐるのである

食糧戦に勝ち抜く

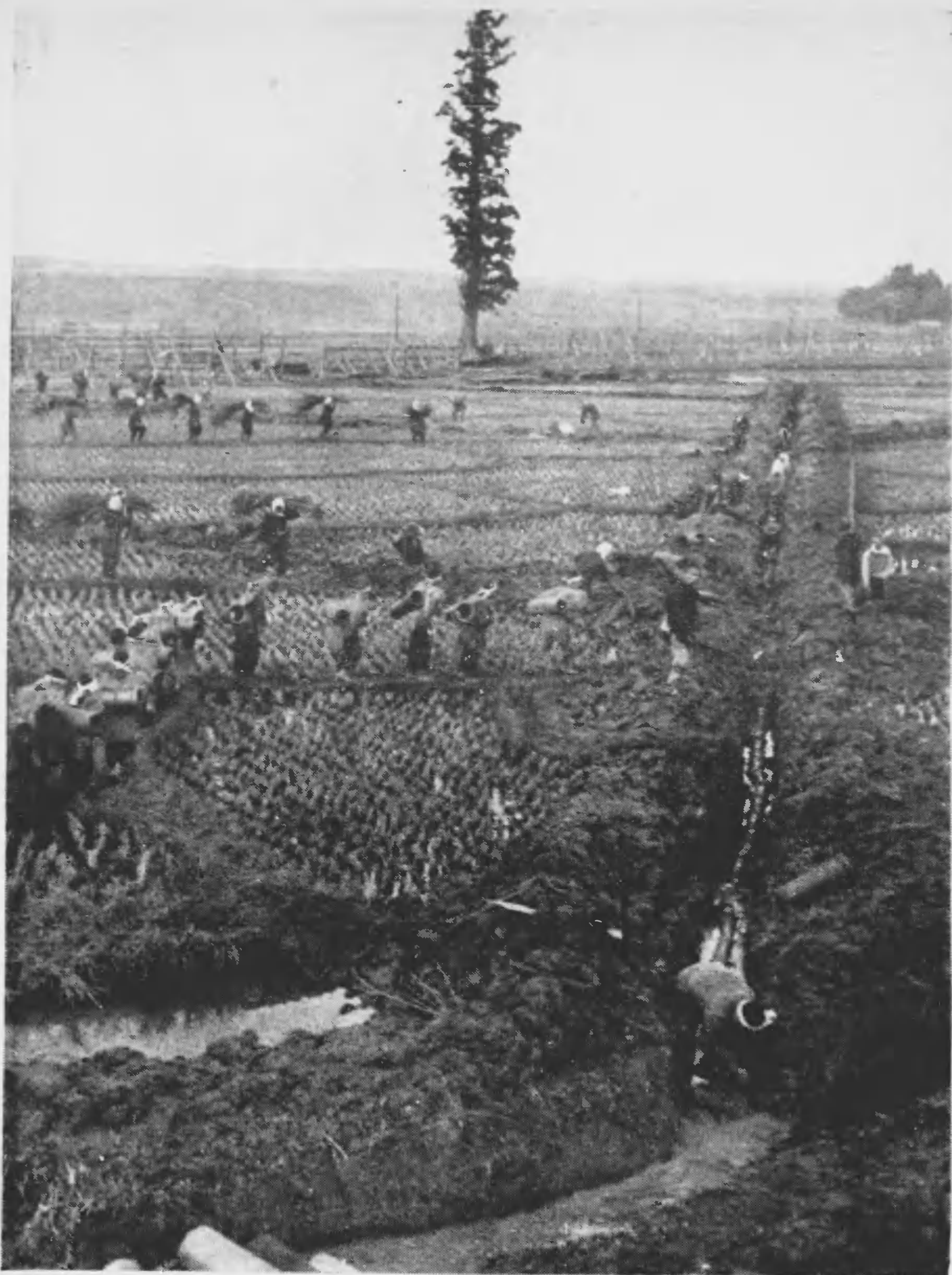


白銀に輝いた北アルプス連峰を近く、仰ぐ自馬山麓の山村。こゝ長野県北安曇郡北條村にも、いま村民団出動の客土工事をはじめられた。村の中心を破つて生きくつとトラクタのエンジンが轟き、運し農夫達の腕が黙々と土に挑む。と闘ふことだ。ここに食糧戦への勝ち抜く路がある。客土だ、暗渠排水だ。土地改良によつて総額三百六十万、これこそ農業に費すなら何れが何をいふも戦ひとらなければならぬ戦ひだ。雲いなどといつておられるか、戦れたなどといつておられるか、収穫のあと、骨休めも農閑期といふ言葉と一緒に返上だ。食糧増産の一路を突進すること、それがわれわれ農士の戦ひだ。今年五月第二次食糧増産対策が決定されるや、その最大眼目たる農地の改良に火のやうな熱意をもつて乗り出した。「すべての田を一般田にせよ」と収穫、供出についで息づくまもなく、全国の湯川、冷害地には客土、暗渠排水工事に文字通り泥まみれとなつて、土に闘ひを挑む農士達の真摯な闘いが展開されてゐる。

この対策決定に當つて東條内閣総理大臣は、食糧自給について國民の固い決意を要望し、農民ともに尋常な措置、尋常な覚悟では實行し得ないことを指摘し、農家が自ら挺身これに当たることを要望し、資材不足に對しては多少の不利不便を忍んでも、粗朶、竹等をもつても完成せんことを求め、政府また非常な決意と措置をもつて指導すべきことを約束したのであつた。數里の遠い山間から客土を運び、粗朶を伐採する農家の協力ぶり、多額の助成金交付、土管等の資材生産等にみられる政府の特別方措置等、眞に官民協力一致をもつてこの食糧戦に勝ち抜かうとする姿こそ、聖戦第三年に突入せんとする最も雄々しく逞しい戦後の姿であらう（土地改良の詳細については、報十一月二十四日號参照）

數里の路を運ばれ、まじりて、これを入れ、は東年に大増産だぞ。





食糧戦に勝ち抜き

暗渠排水

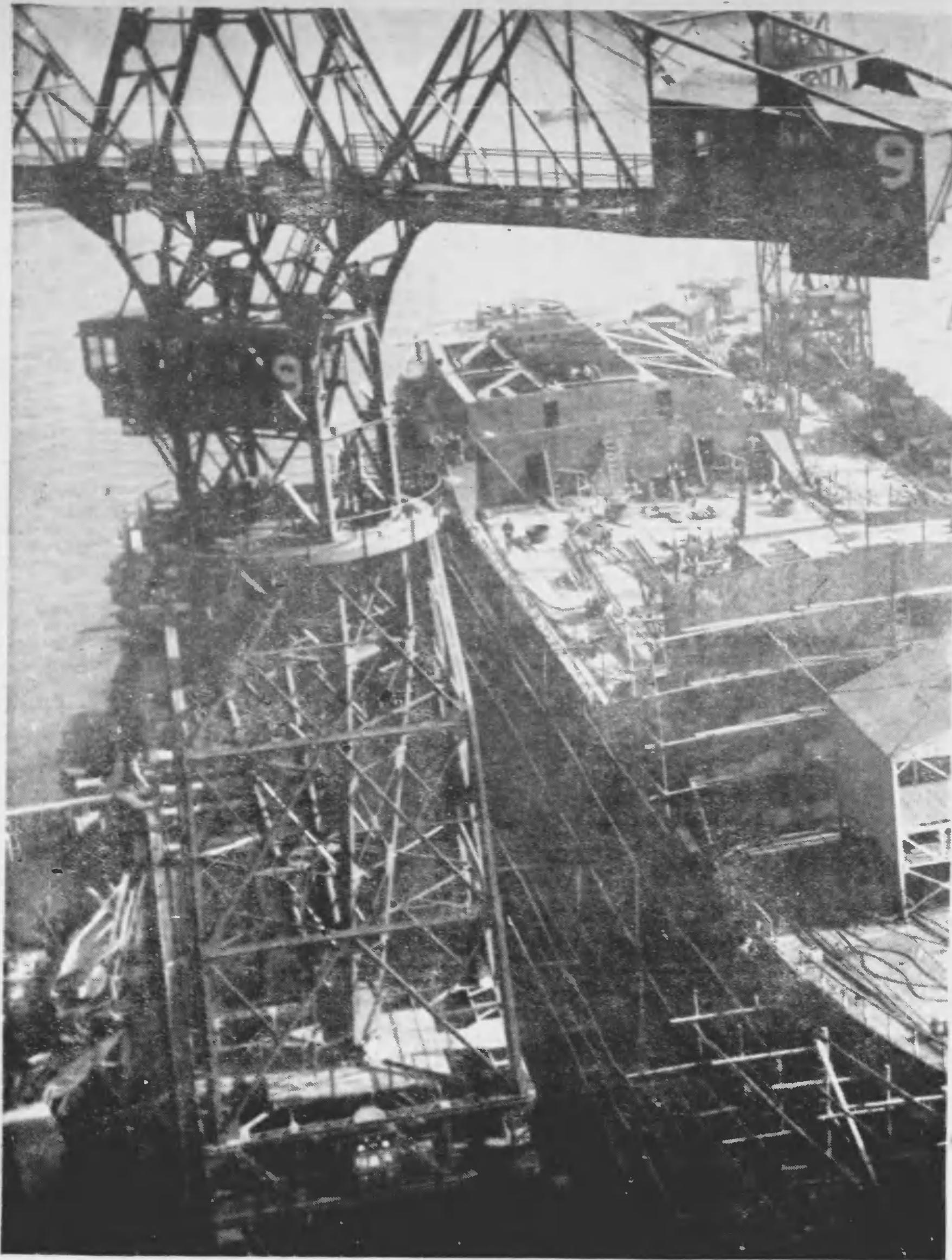
この山形県美田になるなら、早くも雪に見舞われはじめた東北地方だが、冷たさなんかがいつてられるか、素足で踏むシャベルがグツと泥田に喰ひ込む。つと肩に喰ひ入る泥。土管の重さがか大砲の弾だと思へば何でもないよ。上右

六貫目あろうと、七貫目あろうと、背負ひ込んだ土管をこの用事で運ぶ。足は凍りついた。土管を運ぶにつれて、運んで見せるわ。上中

指導員の技術指導も徹底して、水開も土管埋設も快速に進行する。上左

東北六県の農夫達は寒い年月を冷害にさいなまれ、冷害と取組んで苦闘をつとけてきた。だが、いまや終局の勝利を得べく、異常な熱と意気をもつて土への攻撃を開始した。暗渠排水による土地改良はこの地方において最も熱心に實施された。全国有数の積雪地として知られた、こゝ山形縣最上郡の一寒村舟形村富田地内には、いま村總力の暗渠排水工事が展開されてゐる。寒冷何ものぞ、腰までつかる湯田にシャベルを握りしめる村民の意気は高い。





水進けづつに水進

船は勝利へのかけ橋である。無量な大東亜の戦争資源も、船に運ばれて初めて敵を撃つ兵器、飛行機となる。この橋を固くすることこそ、勝利への橋をかけることになるのだ。轟音をたてて造船所は艦に暴進する造船所は月月金金だ。世界一多量造船を呼ぶる敵をもつて、生産戦線においても撃破せん決意に一丸となつてゐるのだ。



一億みんなが 飛行機を造るのだ

敵次のブーゲンビル島沖航空戦におけるわが海軍の大戦果は、二つの教訓をまぎりと國民に示した。第一は空こそ決戦場であり、すべてが航空兵力によつて決せられることである。第二は、叩かれても、機動に出撃し来る敵の底意には、物を持って一氣に我を押し切らうとする傲慢な戦意があることだ。今こそ何が何でも飛行機を造らねばならない。十分の一の飛行機で敵を撃倒、殲滅する自信をもつわが前線將兵に、再び『飛機なきを如何せん』と萬一にも切齒扼腕させてはならない。しかも、飛行機は決して熟練工員ばかりで造られるものではなく、あなたにも、君にも、ヨイコにも造れるのだ。一人々々が生活をきりかへ、節約し、多く働いて、飛行機増産の戦闘配置につかう。第三年は一億が飛行機と化し、物を持つ敵に體當りするのだ。

一軒々々で同じご飯を炊くとは馬鹿なこと、共同炊事で飛行機に大切なガスを浮かびあがる。



子



子は南海の空に戦ひ、母は海軍の工廠で銃着。母たちの銃着射撃に飛行機は一機また一機と飛び立つてゆく。

全を便ふ前に考へ、二回の弾丸切手がつもりも、飛行機となることを。

弾丸

一家揃つて二つ灯りの下で夜なべ。飛行機の電力を横流しするよりは、不用の部屋だけは闇でよい。



農閑期の農村では、働くお母さんに背負はれた坊やも飛行機のピストリングを担りしめ、敵機撃墜へ。



お孫さんのお守りがおばあさんの務め、とは昔のこと。決戦下では貯金のため、に内職が楽しい務め。



一銭を笑ふものは一戦に敗る。銅貨、白銅貨、ニッケル貨で貯めたお小遣ひが飛行機になる。なんと、うれしさをヨイコ





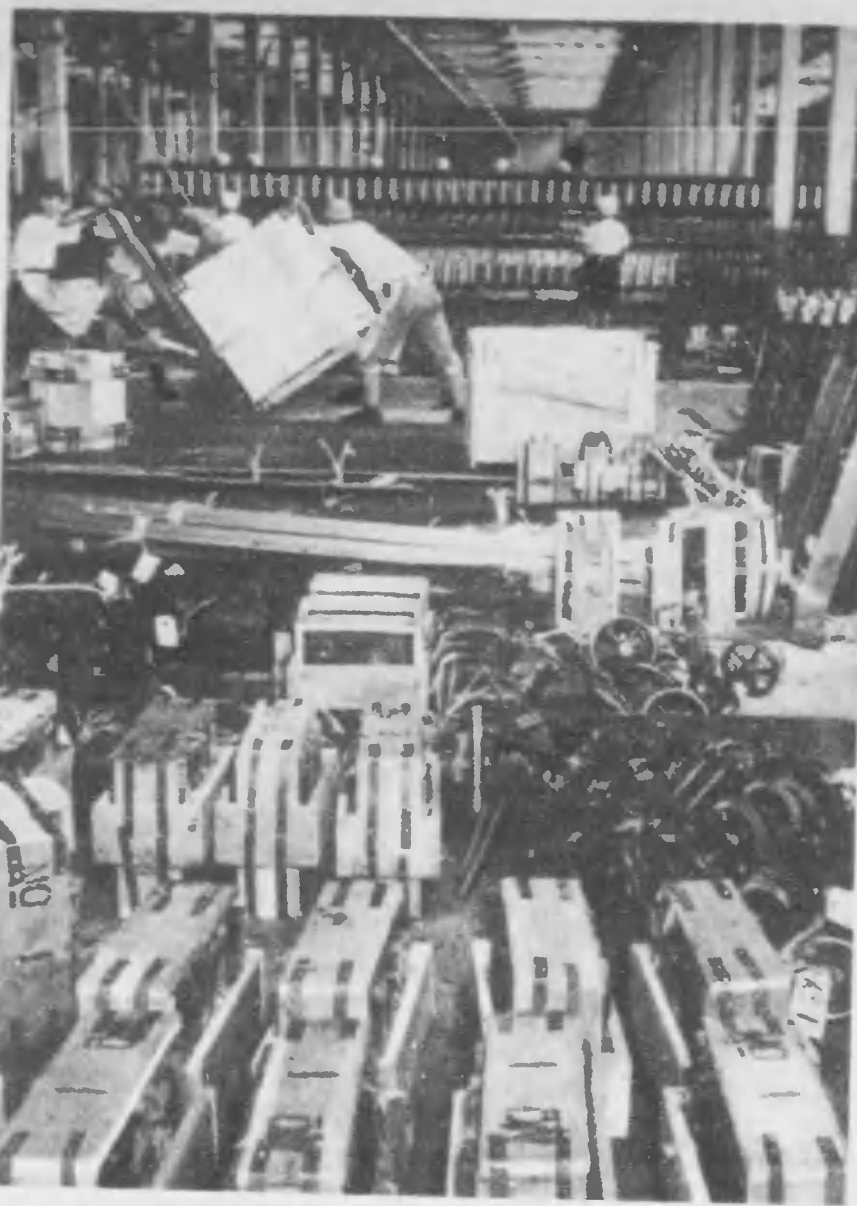
片手は大東亞戦争に捧げ、残る片手で大東亞戦争を完遂せんとする再起勇士は今日も職場に突撃だ



戦線ではなくて残念であらう、が君の征くところは決戦の原動力、飛行機生産の第一線だ。應召と同じく天下晴れての徴用だ



かつて世界無比の製品で米英を壓倒した紡績工場は轉用されて、今度は世界無比の新鋭機で敵米英を壓倒するのだ



飛行機一機だけで○万枚の設計図がある。簡単な製圖や寫圖は女子でも出来る。増産には男子も女子もない。たゞ突進あるのみ



折曲げ、鋸かけ等の作業も女手で十分だ。さあ飛行機工場へ、嫁入り前にお國につく



戦友を思へば、戦果を思へば、一塊でも多く掘り出して、この銅を飛行機にせよ



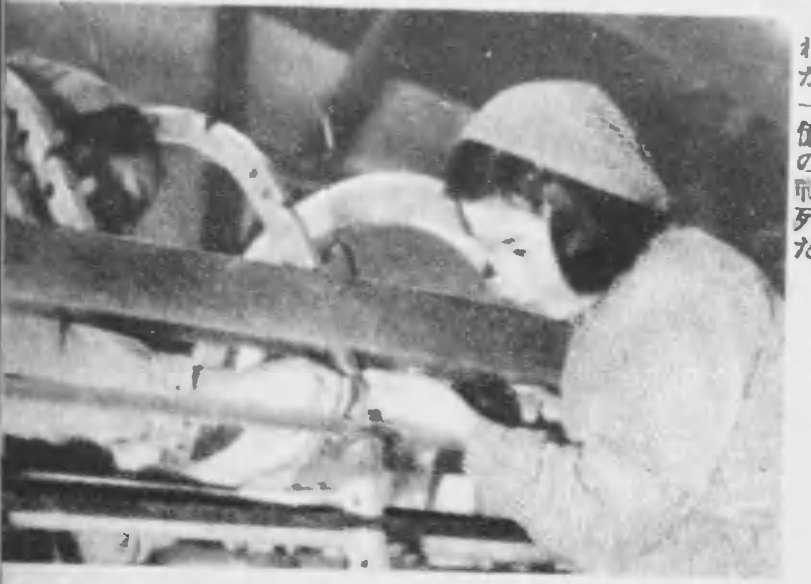
戦争には晝も夜もない、探炭船にも晝夜はない。炭俵にまみれた手が飛行機を造つてゐるのだから



工場を工場とし、男女學生が雲母の選擇。この雲母が航空機の重要部品に据付けられると思へば、作業もはかどる



可愛い少女たちでさへ鋸打ちが出来る。決戦少女に續いて、みんな飛行機増産へ。それが一億の戦列だ



部品には精密度が必要だ。寸規器を使ってプロベラの規格検査。この一つ／＼がブリッヂに空に羽撃くのだ





□一億の機體を放棄した二機、また一機が種々と完成してゆく。南に北にこの機體が敵機を散らし、敵陣を木葉微塵と碎く。みんなて造った飛行機で戦ひ勝つのだ。それが一億の機體だ

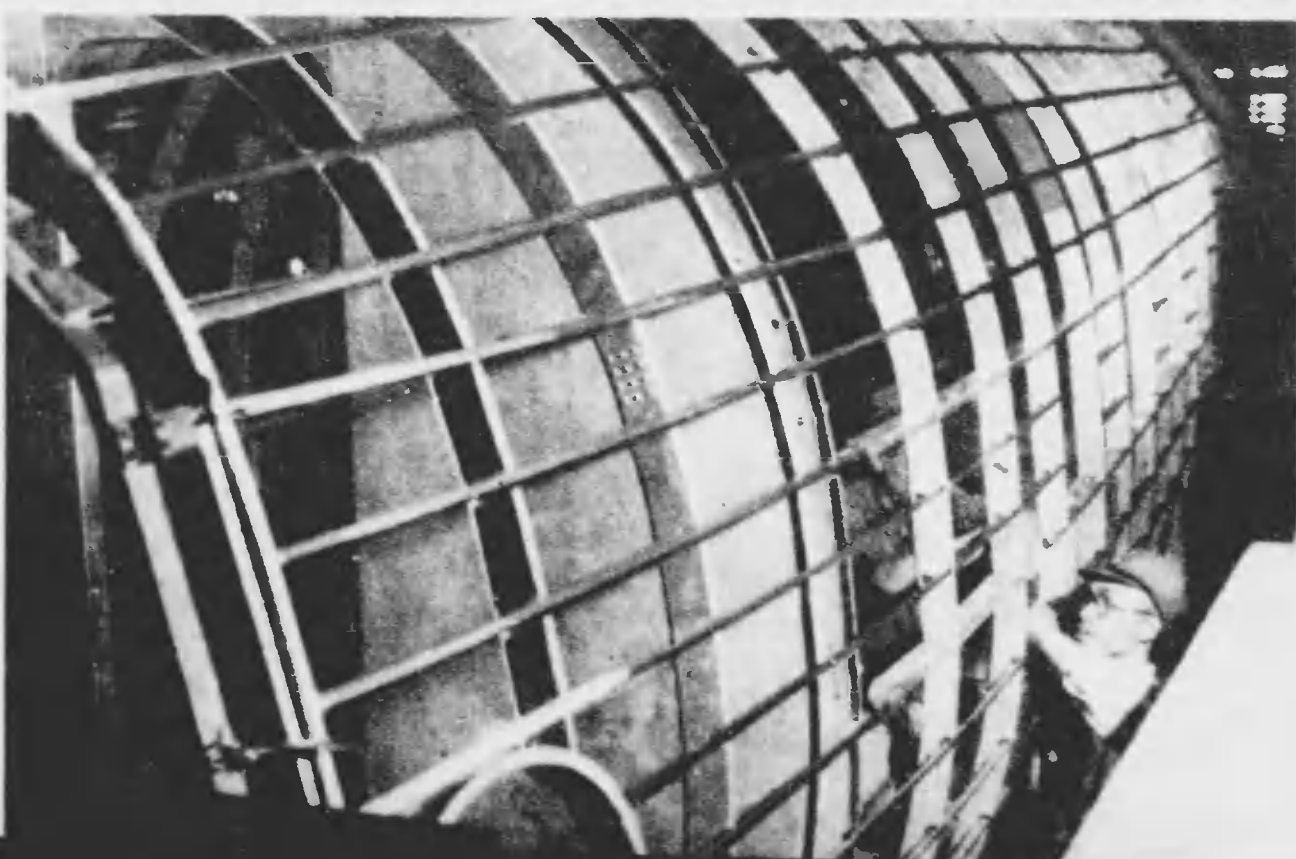


一億の飛行機を造るのだ



「こゝが」と指さしながら飛行機増産の急務を、空襲の體驗から海軍は説く。工員は増産をもつて必滅に應へんと、聲もふるはせて誓つた航空隊員。さあ、しつかと手を握つて敢闘しよう、戦場に戦場に

見ず知らずの人に愛機に手も觸れさせぬ荒野の氣持、工員もまた愛兒を育て上げる氣持で飛行機を造る。この精神が一つとなつて飛行機に照らつてゐればこそ、世界を驚嘆させる大戦果が生れるのだ



★表紙



「行つてまいります」復讐をへた出發す前の荒野の氣がみなぎる。愛機新司令のエンヂンは既にかけられた。轟々の機音は地軸をゆるがして、いま機は地を蹴るばかりである。五分後には、その俊敏な機體は、南海の蒼穹をつつきつて、銀箭のやうにまかけてゐるのだ



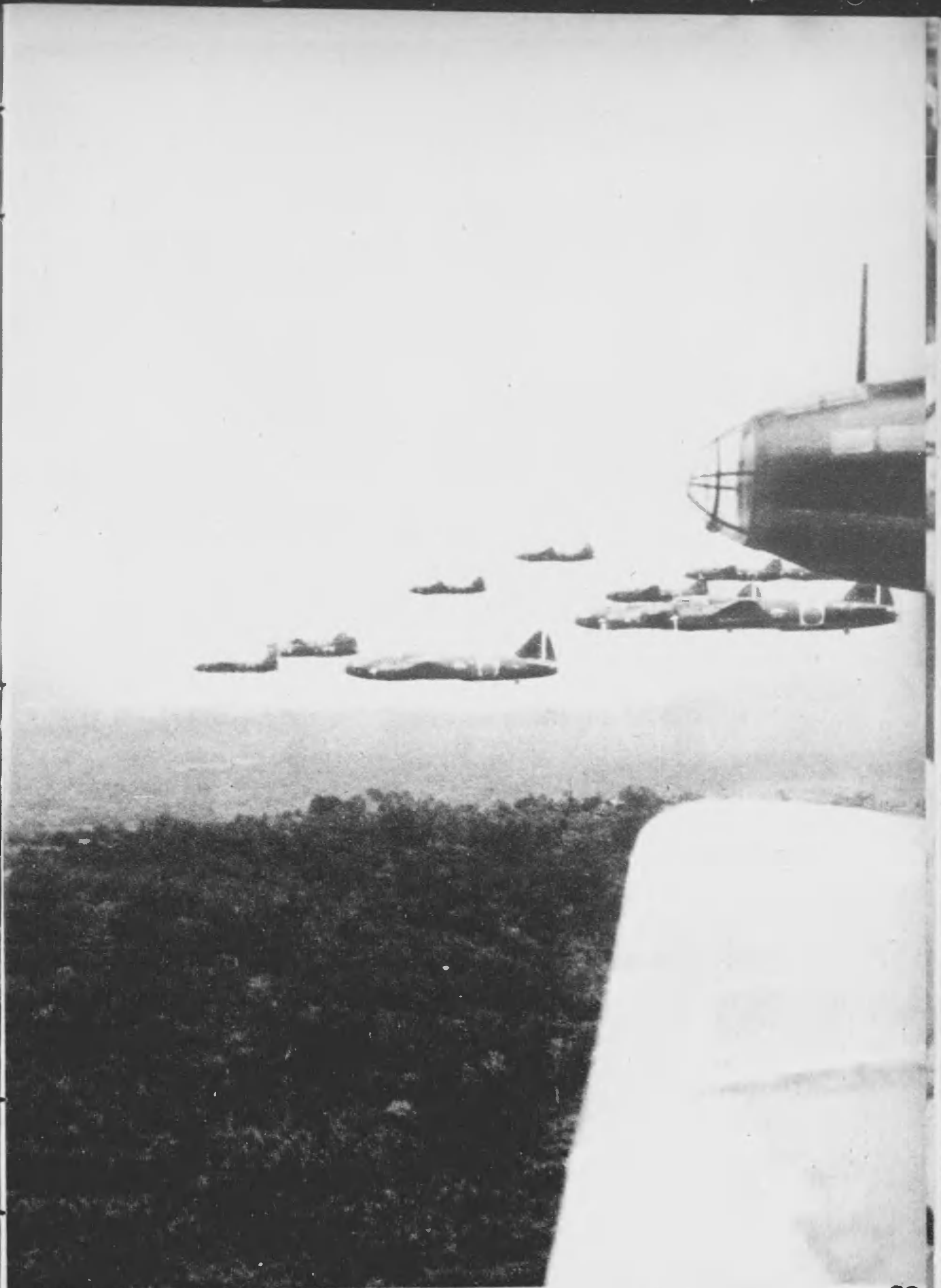
心報に恩君死

時の立札

昭和十一年十一月一日

この一年 敵は
量に量を重ね
自信の満をはらんで
一氣に我を押切らんの構へ

われらまた
戦力に戦力を蓄へ
大東亞の總力を結集し
敵國の非望破碎の秋いたる
わが荒鷲は必殺の魚雷を抱いて
敵艦群に突入しゆく
われらも必勝の鬪魂を抱いて
第三年に突入しよう



よくあたる 彈丸切手

一枚二円四角

第十九回 賣出十二月一日〜十五日

抽籤 十二月二十日

當籤 八枚三付二枚ノ割合



抽籤の籤は濟だん切手
五枚以上とまめと
郵便局へお出し
特別据置貯金證と
引換て下さ

寫眞週報
（禁無斷轉載）

昭和十八年十一月
八日印刷發行

情報局
東京都豊田町
印刷局

印刷局
東京都豊田町

定價
一部十錢
（送料一錢）
▲外國郵送に依
共一地域は送料
其の都度郵切手
金より差額を申
受けます

所 達 申
全國各地官報
週報普及部
郵便局
書店・驛賣店
新聞販賣店

本誌を回覧に
本誌を、高組や職場
で回覧するなど、出
来るだけ有様に御利
用下さい

前線慰問にも
まだお読みになつた
ら本誌を前線慰問に
送りませう。送料は
内地と同様に封して第
三種と明記すれば、
一部一錢です

印刷局印刷發行

（列情報選）A4規格定額はさき大の資本